

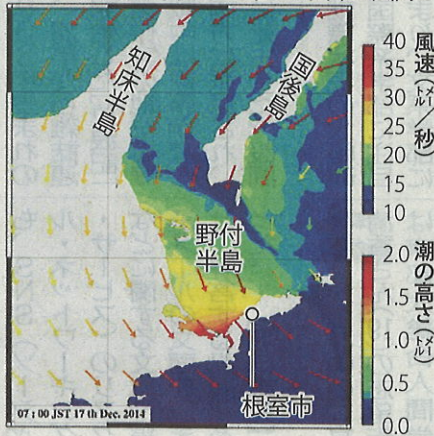
2015年(平成27年)1月18日(日)

柴山・早大教授が シミュレーション

高潮被害に遭った根室市で現地調査をした早稲田大理工学術院の柴山知也教授(沿岸防災)は、気象と海洋のデータを基にした高潮のシミュレーションを研究室のホームページで発表している。下図。

2014年12月17日午前7時の
風向きと潮の高さ

※矢印は風向き



根室市の最大浸水高は2.8メートルだった。柴山教授は「低気圧が長時間居座り、東の風で海水が根室半島近辺にたまった後、北からの風で海水が市街地に押し寄せたと分析。市街地と根室港が低気圧の強い風で高潮が起きやすい場所にあるとの立地条件も指摘した。シミュレーションでは、風向きの変化とともに高潮が移動する様子が見える。柴山教授は「高い精度で高潮を分析できた。今後は、シミュレーションは